日本医療機能評価機構認定病院

郷那珂川病院だより

病院理念 ― 思いやりそして努力 奉仕そしてよろこび

VOL.60 平成27年5月

〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17

TEL.092-565-3531 (代) FAX.092-566-6460



http://www.nakagawa-hp.com (携帯電話でもご覧いただけます)

社会医療法人喜悦会の歩み

理事長 井上史子

染井吉野、八重、枝垂れと桜花欄漫の春もあっという間に過ぎて、薫風香る5月となりました。皆様には 益々御清栄にお過ごしのことと存じます。

歳月の流れは早いもので、那珂川病院創設者の井上 繁孝逝去からこの4月で満30年が経過いたしました。 いま改めて那珂川病院の歩みを振り返ってみたいと思 います。

井上繁孝が現在地に那珂川病院を開設したのは、1964年(昭和39年)11月、丁度東京オリンピックが盛会のうちに幕を閉じた直後のことでした。病床は今と同じ162床、職員総数は100余名だったと記憶しています。

1985年(昭和60年)4月26日、井上繁孝が手術室で執刀中に食道静脈瘤の破裂を来たし、九州大学病院に入院しましたが、肝不全のため急逝いたしました。一時は病院の存続の危機に見舞われましたが、幸いにして昭和61年4月から木村專太郎先生を院長にお迎えすることが出来て、那珂川病院は地域の中核病院として発展していくことが出来ました。

2001年(平成13年)4月から現在の下川敏弘院長に引き継がれました。お陰様で病院は順調に発展を遂げております。現在、社会医療法人喜悦会は那珂川病院のほかに、二日市中町病院、オレンジハウス清和、デイサービスセンター清和、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所と5つの部門を運営しており、法人全体の職員数は500人を超えました。従業員のため院内保育所も充実して、平成25年には「子育て応援宣言事業所」として思いがけず福岡県知事表彰を頂きました。これもただ一重に地域の皆様、病院を応援してくださるたくさんの方々、そして懸命に働いてくださっている従業員の皆様のお陰だと心から感謝しております。

また地域の皆様に対しては少しでも貢献できますようにと健康教室やフットケアミーティング、ささえあいの会など定期的に開催しております。今年1月31日には福岡県立大学と共催で第1回キャンサーナーシングカフェを開催しました。"知りましょうガンのこと"をテーマに、告知を受けた方が病院で、ご自宅で、住

み慣れた町で安心して生活を送るため にはどうすればよいのか、カフェスタ イルで語り合う会です。今回はたくさ んの方々に参加頂き病院と地域をつな ぐ良い会となりました。

これからもさらに各部門をひとつひ とつ充実させ、職員一丸となって発展 させていきたいと思っております。

私も母が旅立った歳に近づいてまいりました。これからは喜悦会を次の世代にバトンタッチすることが私の最大の仕事と思いながら精進していきたいと考えています。



アカツメクサ

父との思い出

嘉村 政憲



をひとりで見ておりました。通常の会社勤めもしておりますので、最初、平日は朝食を作って食べさせて、その後朝から夕方まではデイサービスで過ごしてもらい、夕方はヘルパーさんに夕食を食べさせていただき、夜からまた私と過ごす生活でした。休日には自宅で私と過ごしておりました。自宅では私が作った下手な食事を食べさせていたのですが、父は「まずい」とは一回も言わずにいつも完食をしてくれました。しばらくこのような生活が続いたのですが、少し痴呆が進行したことと歩行が以前に比べてままならなくなったため、トイレが間に合わなくなってきました。そのため、平日はショートステイを利用するようにし、休日に帰宅するという生活に変わってきました。色々な介護のシステムを利用して父が少しでも長く自宅で生活できるようにしておりました。

父は二箇所に癌をもっておりましたので、手術をするために二度入院いたしました。この頃より私にできることは、「時間は少しでも毎日顔を見に行くことと下着の洗濯をしてあげること」でした。もともと口数は少ない父親でしたが、男同士ということもあり、ほとんど会話もなく帰宅する毎日でした。そのなかで私の子供(父からすると孫)が一度だけ見舞いにきたのですが、全然喋らなかった父が自分から「おう、久しぶりやないか」と言ったのでびっくりしました。「やはり孫はかわいいのだなあ」と改めて感じた一日でした。また術後はかなり痛かったと思うのですが、父は痛いとか苦しいということを一切言いませんでした。このことは息子へ心配をさせてはいけないという親心からだと思います。父の深さを感じ、私にはまねできないし超えられない大きなものを感じました。

癌が進行し有効な治療方法もないと説明を受け、最期は少しでも楽に、好きなように過ごさせてあげたいとの思いで 那珂川病院への入院を決めました。私が父の見舞いに来た 際には、気持ちよく過ごせるようにお気遣いをいただいたり、 父の好きな番組を伝えていたらスタッフの方が車椅子にのせてテレビの前に連れて行っていただいたり、父が亡くなる数日前から私と私の子供とで泊まり込みをした時には、子供たちにもお気遣いをいただいたりと、担当の山本様をはじめスタッフの皆様への感謝の気持ちはつきません。本当にありがとうございました。

今仏壇の父に向かって挨拶をする毎日を送っています。生 前、父は私に心配をかけないように頑張っておりました。

今度は私が父に心配をかけないようにする番です。仏壇に向かって悔やんだりお願いしたりはしないようにしています。父が心配するからです。仏壇には「おはよう」「行ってきます」など毎日挨拶するようにしています。

平成26年11月29日 追悼会のスピーチから

緩和ケア統計2014年 (1月1日~ 12月31日)

入院相談	入院相談 390件		
緩和ケア病棟(定床 24 床)			
入院件数	293件(243名)		
退院件数	294件(250名)		
平均在院日数	28日		
1 日平均患者数	22.5名		
在宅ケア 67名			
在宅看取り	37名		
緩和ケア病棟入院患者 243名の内訳			
年齢	26~95歳(平均 72)		
男女比	136:107		
疾患名	肺癌	62	
	胃癌	29	
	大腸癌	26	
	膵癌	19	
	胆囊·胆管癌	12	
	子宮癌	11	
	乳癌	7	
	食道癌	6	
	腎癌	6	
	膀胱癌	6	
	悪性リンパ腫	6	
	その他	53	
	九州がんセンター	100	
	福岡赤十字病院	20	
	当院	19	
紹介元の医療機関	九州中央病院	13	
	九州大学病院	11	
	福岡徳洲会病院	9	
	福岡大学病院	8	
	むらおかホームクリニック	5	
	その他	58	
患者住所	福岡市南区	101	
	春日市	41	
	那珂川町	39	
	大野城市	20	
	福岡市博多区	11	
	太宰府市	9	
	筑紫野市	4	
	その他	18	

ボランティアだより

今回は年に1度素敵な歌声を披露くださるコーラスグループ『ラウダーレ』の皆さんをご紹介します。

『ラウダーレ』とはラテン語で「歌を賛美する」の意味で、2009年1月、カトリック笹丘教会設立チャリティーのために結成されたそうです。

メンバーは「笹丘カトリック幼稚園」の在園児、卒園 児のママさんで当院に来ていただくようになって今年で4 年目、当院以外にも高齢者施設や特別支援学校などでも 活動されています。

歌を歌うだけでなく、曲に合わせた小道具を使った演出 で楽しませてくれます。聞いてくださる方をイメージしなが ら、どうすれば喜んでくださるか、皆でアイディアを出しあっ て、振り付けや小道具を作りあげるのも大きな楽しみだそ





うです。またトーンチャイムの演奏もあります。トーンチャイムとは、ハンドベルのように数人で音を分担して音楽を演奏する楽器です。コーラス隊の迫力ある歌声とトーンチャイムの澄んだ優しい音色が、患者さん・ご家族だけでなく私達職員の心も和ませてくれます。

当院緩和ケア病棟では、ボランティアを随時募集しています。ご興味のある方・実際のボランティア活動をご覧になりたい方はお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先: ボランティアコーディネーター 山下公子

🧩 "お達者サロン"のご案内 🕷

当院では、地域の方々、医療者に向けた「お達者サロン」を下記日程にて開催いたします。

今では2人に1人ががんに罹患すると言われる時代です。がんと闘いながらもよりクオリティの高い生活を住み慣れた町で行っていただくために、どのようなサポー

トができるかを知っていいただこうと企画しました。また、そのサポートメンバーであるボランティアについて もお話いたします。

がん・緩和ケアについて興味のある方、またボランティアに興味のある方もお気軽にお越しください。

日程	テーマ	担当者
6月19日	『がん検診を受けよう!』	外来師長 渡邊 留美
7月17日	『くすりは怖くない』	薬剤師 若杉 優一
8月21日	『あなたは何を食べたいですか?』	管理栄養士 林田 由美子
9月18日	『なるほど!訪問看護』	訪問看護師長 松下 徳代
10月16日	『その人らしさを支えるリハビリ』	訪問リハビリ 前田 玲美
11月20日	『社会的援助』	社会福祉士 橋本 理絵
12月18日	『身体症状の緩和』	医師 犬塚 貞明
平成28年1月15日	『自分らしく生き抜くために!』	緩和ケア病棟師長 植木 昭代
2月19日	『家族ケア』	臨床心理士
3月18日	『ボランティアとは』	那珂川病院ボランティア 山部 敬子

会場 那珂川病院

4階病棟談話室

時間

第3金曜日 13時~13時半

問い合わせ

ボランティアコーディネーター 山下 公子



第四キャンサー・ナーシング・カフェ

を終えて

緩和ケア病棟師長 植木 昭代

「地域にもっと私達のできることを知ってもらいませんか?」というお誘いを受けたのは、去年の8月のことでした。福岡県立大学の看護学部教授 村田節子先生からです。那珂川病院は、がん看護学の講義や実習、看護学生の受け入れなどで、かねてからお付き合いをさせていただいていた経緯があります。

数年前からいろいろな病院で、がんサロンやがんカフェなどと銘打ち、地域の方々にがんという疾患の理解を深めてもらい、安心して生活できるようお茶でも飲みながら、何でも相談にのりますよという取り組みが行われています。今や2人に1人はがんになるといわれる時代。そのがんに関して、予防から治療、そして身体や心の苦しみから解放され、自分らしく地域で暮らせるためのお得情報をご紹介しようというイベントです。

そもそも、キャンサーナーシングカフェというネーミングは、どの開催施設も使ってないような名前を意識してつけられたもの。一般の方々には「なんじゃそりゃ?」って感じですよね。ナーシングカフェとは看護師が中心的な表現ですが、看護師は患者さんにとって一番身近な存在として、24時間お世話をし、多職種間の調整役として、患者さん・ご家族と医師や多職種との橋渡し役を担っているのでという意味も込められています。

有志を募ると、本当にありがたいことに、全職種 から「いいですよ。やりましょう!」との返事をも らいました。ここからが那珂川病院チーム力の見せ どころです。毎回熱いミーティングを重ね、夏真っ

盛りだった発足時期からあっという間に1月31日 カフェ当日を迎えました。私の体験したがんサロン とは全く規模の違う、病院挙げてのお祭りのような 準備が整いました。そこには、各部門全員の応援の 集大成がありました。

病院内の職員からすれ違いざまに「私の行きよる 美容院にも宣伝しとったよ!」と声をかけてもらっ たりもしました。おかげさまで講演の場・体験の場・ ふれあいの場・検診センターの4会場とも大盛況で した。ボランティアの方々お手製のケーキにおいし いコーヒはあっという間になくなりました。お土産 の中には河津看護部長手作りのクッキーもあり、私 達が目指すところの「あたたかいおもてなし」がで きたのではないかと思っています。

がんという病は悪いことばかりではありません。 治療法や検査法の進歩により、「がんサバイバー」と いわれる長期生存者が増え、社会復帰して日常生活 を送る方へ、より多くの支援が国を挙げて進んでい くと思われます。しかし現時点では、その支援方法 をどのように手に入れたらいいのかわからない方々 もおられるでしょう。核家族化・高齢化がますます 進み、在宅療養に困難を感じるがために、家で過ご したいという希望を断念せざるを得ないのです。

那珂川病院は地域密着型の病院として、これからも「住み慣れた街で」生活を送ることができるよう、情報発信源となっていきたいと考えています。「今度はいつあるの?」「なんで今までせんやったと?」など、ご来場いただいた方からの嬉しいお言葉を励みとして、今後も企画したいと思います。

多くのご参加ありがとうございました。今後の開催日におきましては決定次第、事前にお知らせをさせていただきます。









新任医師のご挨拶



脳神経外科中本 守人

本年1月より、那珂川病院で勤務させていただくことになりました、中本守人です。私は平成12年に長崎大学を卒業ののち、長崎大学脳神経外科へ入局し、大学病院や長崎県内の複数の医療機関、北九州、広島の関連病院などのいわゆる一般的な脳神経外科領域を

先進治療から地域医療まで広く経験させていただきま した。

このたび縁あって那珂川病院にお世話になることに致

しました。

当院では回復期リハビリ病棟を主に担当する予定で、病院スタッフとともにチーム医療を実践し、急性期から回復期、回復期からその先への橋渡し役として尽力していく所存です。ベッド数に制限はありますが、急性期からのできるだけ早期の受け入れ体制を心がけていきたいと思います。また外来では脳疾患の診断・治療のほか、脳卒中予防についての啓蒙など、これまでの経験を生かし地域の皆様の健康に貢献できればと考えております。

微力ではありますが、この地域の医療に少しでもお役 に立てたら幸いです。どうぞ、よろしくお願い致します。

原子力防災訓練に 参加しました

平成27年1月24 日に、玄海原子力発 電所で重大事故が発

生したという想定で、福岡・佐賀・長崎の3県が連携した原子力防災訓練が実施されました。当日は、県・市区町村、消防、警察、自衛隊などの関係機関および、地域住民など123機関の約570人が参加しました。

訓練では、原発から半径30km以内にある病院から、





糸島医師会病院へと次々に患者さんが搬送され、まずは 模擬患者さんを乗せた搬送元の看護師さんのスクリーニ ング検査と除染が行われました。続いて、模擬患者さん にも同様の作業を開始しました。その後、那珂川病院か ら迎えに来た救急車で、当院に模擬患者さんを搬送する ことが那珂川病院が任された訓練でした。

もしもの時に備えて、訓練の必要性を改めて実感した 1日となりました。







勤 医師 担 診 医師名 扣当領域 下川 敏弘(院長) 外科・呼吸器外科 大内田 敏行(副院長) 放射線科 寛志(副院長) 吉村 外科・消化器外科 大国 貴史 外科・漢方内科・緩和医療 古賀 健資 外科·健診科 熊澤 浩明 外科・消化器外科 福永 昌幸 外科・麻酔科 外科・リハビリテーション科 古賀 善彦 齊田 整形外科 光 竹内 一馬 血管外科・循環器内科 中本 守人 脳神経外科 筒井 伸一 内科・消化器内科 安藤 智恵 内科・循環器内科 藤澤 正寿 内科・腎臓内科・人工透析 立元 貴 内科・糖尿病内科 犬塚 貞明 外科・緩和医療 月江 教昭 循環器内科・緩和医療